

隆起性皮膚線維肉腫（りゅうきせいひふせんいにくしゅ）

隆起性皮膚線維肉腫について

隆起性皮膚線維肉腫は、皮膚の深部から発生する軟部組織の腫瘍です。この腫瘍は真皮層や皮下組織に発生し、良性と悪性の中間的な性質を持つ中間悪性腫瘍として知られています。

年間の発症率は100万人あたり4.2人程度と推計されています。

30～50歳代に好発しますが、小児に生じることもあります。好発部位は体幹部ですが、四肢・頭頸部・陰部に発生することもあります。

隆起性皮膚線維肉腫の主な原因は、染色体の変化です。17番染色体と22番染色体の一部が入れ替わることで「COL1A1-PDGFB」という新しい遺伝子が生じ、これが腫瘍の成長に関与します。この変化は生まれつきではなく、後天的に発生します。

症状について

隆起性皮膚線維肉腫は、初期段階では皮膚の色が変わったり、わずかに盛り上がったりする程度から始まり、時間とともに腫瘍のサイズが増大し、隆起した形状を呈するようになります。

診断について

確定診断には皮膚生検が必要です。しこりの一部を切り取って顕微鏡で詳しく調べることで、他の皮膚腫瘍との違いを確認します。また、必要に応じてMRIやCT検査で腫瘍の広がりや転移の有無を評価します。

治療について

隆起性皮膚線維肉腫の主な治療方法は手術による腫瘍の切除です。腫瘍の周囲の正常組織ごと、十分な余裕を持って取り除くことが推奨されます。十分な切除ができない場合には放射線治療が行われることがあります。また、確立された薬物療法はありませんが、軟部肉腫に準じた抗がん剤や、イマチニブという薬剤が使われることがあります。

執筆者

- 氏名： 森 章一郎（もり しょういちろう）
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 皮膚科

- 氏名： 奥村 真央（おくむら まお）
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 皮膚科